

計画目標①

目 計 標 画	成田空港とのつながりを強化する公共交通サービスの提供
方 施 向 策 性 の	本町～成田空港間の公共交通サービスを強化することで、町民の生活利便性向上、本町におけるまちづくりの推進を図ります。

【指 標 目 標】	指標	目標	現状値 R5年度	R6年度	R7年度	R8年度	R9年度	R10年度	R11年度
	空港シャトルバスの運行本数	現状値 以上	40便/日	維持					
空港シャトルバスの利用者数	320人/日	256.2 人/日	385.4 人/日						

【事 業 評 価】	<p>空港シャトルバスはコロナ禍以降順調に利用者数を伸ばしている。 時間帯によっては、現状で40名程度乗車する便もあるため、今後芝山町にバス停の増設を行うことを考慮すると増便を検討する必要がある。</p>
--------------------	--

※今後の見直しや、来年度計画について記載

計画目標②

目 計 標 画	近隣自治体への移動を支える公共交通サービスの提供
方 施 向 策 性 の	成田市・香取市・匝瑳市等への移動を支える公共交通サービスを維持させることで、町民の通勤・通学を支えます。

【指 標 目 標】	指標	目標	現状値 R5年度	R6年度	R7年度	R8年度	R9年度	R10年度	R11年度
	路線バスの運行本数	維持	61便/日	47便/日					
路線バスの利用者数	維持	44.3万人 /年	37.8万人 /年						

【事 業 評 価】	<p>令和6年6月にJRバス関東株式会社の多古本線・栗源線が減便された。 現在、上記路線は、国・県の地域間幹線系統補助事業を活用し、町でも「地方バス路線維持補助金交付要綱」を制定している。この要綱に基づき、運行経費に対する事業者負担分（赤字分）を関係する市町で補助している。 また、京成バス千葉イースト株式会社が運行する桜田線・栗源～成田空港線も廃止代替路線として運行されている。 今後も現状を維持できるよう、補助や利用促進に繋がる企画を実施していく予定である。</p>
--------------------	---

※今後の見直しや、来年度計画について記載

多古町地域公共交通計画 事業評価調書【令和6年度執行状況】

計画目標③

目 標	町内の移動を便利にする地域内交通の提供
方 策 向 策 性 の	町内の移動を支える公共交通サービスをより便利にすることで、町民の買い物・通院を支えます。 また、観光来訪者の観光周遊を支えることも視野に取組を推進します。

【 指 標 目 標 】	指標	目標	現状値 R5年度	R6年度	R7年度	R8年度	R9年度	R10年度	R11年度
		デマンドタクシーの利用者数	45人/日	31.3人/日	29.8人/日				

【 事 業 評 価 】	デマンドタクシーの利用者減少の要因として、午前中に予約が集中した結果、希望の時間に利用できない利用者が出ていることが考えられる。 今後は、デマンドタクシーが1周でも多く回れるよう、利用者には予約時間には家の前で待ってもらうなど、徹底した周知を行っていく。
-------------	--

※今後の見直しや、来年度計画について記載

計画目標④

目 標	公共交通に対する財政負担の適正化
方 策 向 策 性 の	収入を増やす取組、支出を減らす取組を推進し、公共交通サービスの費用対効果を高めます。

【 指 標 目 標 】	指標	目標	現状値 R5年度	R6年度	R7年度	R8年度	R9年度	R10年度	R11年度
		利用者1人当たりの財政負担額 (空港シャトルバス)	108円/人	195円/人	67円/人				
	利用者1人当たりの財政負担額 (デマンドタクシー)	1,570円 /人	1,913円 /人	2,862円 /人					

【 事 業 評 価 】	空港シャトルバスについては、大幅に利用者が増加したため目標を過達した。 一方、デマンドタクシーについては、委託費の増加や利用者が減少したことにより財政負担額が増加した。 空港シャトルバスとデマンドタクシーの委託費は毎年増加しているため、利用者を増やすことで財政負担を軽減できるよう、利用促進の取り組みや周知を行っていく。
-------------	--

※今後の見直しや、来年度計画について記載

多古町地域公共交通計画 事業評価調書【令和6年度執行状況】

計画目標⑤

計 画 目 標	交通弱者の移動手段の確保
方 向 策 性 の	ハード面・ソフト面から公共交通サービスを見直し、高齢者や小中高生などが不自由なく、移動できる環境を目指します。

【 指 標 目 標 】	指標	目標	現状値 R5年度	R6年度	R7年度	R8年度	R9年度	R10年度	R11年度
	町内在住の高齢者における公共交通サービスの利用率	現状値 以上	5.70%	不明					

【 事 業 評 価 】	令和6年度に町民アンケートを実施出来なかったため数値を出すことができない。 令和7年度は、「交通空白」解消緊急対策事業の調査と併せて実施する予定である。
----------------------------	---

※今後の見直しや、来年度計画について記載

計画目標⑥

計 画 目 標	使いたくなる魅力的な公共交通サービスの提供
方 向 策 性 の	公共交通サービスの魅力発信、魅力創出を行い、公共交通サービス利用のきっかけづくりをすることで、公共交通を使う意識を醸成します。

【 指 標 目 標 】	指標	目標	現状値 R4年	R6年度	R7年度	R8年度	R9年度	R10年度	R11年度
	公共交通の利用促進に関する取組数	6件 (累計値)	1件	5件					

【 事 業 評 価 】	公共交通分野の地域おこし協力隊 齊藤常治氏と協力し、路線バス乗り方教室や2階建てバスツアー、のりものベースを開催した。また、多古高校にも協力いただき空港シャトルバスのクリスマスデコレーションを実施した。12月には空港シャトルバスの通算利用者数が100万人を到達したことを記念したイベントを開催した。 今後も齊藤氏と協力し公共交通に興味を持っていただく企画を計画していく予定である。
----------------------------	---

※今後の見直しや、来年度計画について記載